

平成28年度

公 営 企 業 会 計
決 算 審 査 意 見 書

南アルプス市監査委員

南ア監第8-6号
平成29年8月22日

南アルプス市企業局
市長 金丸一元 様

南アルプス市監査委員 望月健二
同 小池康郎
同 花輪進

平成28年度公営企業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、平成28年度南アルプス市水道事業会計及び南アルプス市自動車運送事業会計決算書並びに決算附属書類を審査したので、次のとおり意見書を提出する。

目 次

1. 審査の対象	1
2. 審査の期間	1
3. 審査の方法	1
4. 審査の結果	1
5. 審査の概要と意見	
(1) 南アルプス市水道事業会計	2
(2) 南アルプス市自動車運送事業会計	8

平成28年度公営企業会計決算審査意見

1. 審査の対象

平成28年度南アルプス市水道事業会計決算
平成28年度南アルプス市自動車運送事業会計決算

2. 審査の期間

平成29年7月18日

3. 審査の方法

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された、平成28年度南アルプス市水道事業会計及び南アルプス市自動車運送事業会計の決算については、その事業が地方公営企業法、その他の関係法令に基づいて常に経済性を発揮し、本来の目的である公共の福祉を増進するよう運営されているか、決算書類が経営成績及び財政状況を適正に表示しているかどうかを検証するため、決算書、決算附属書類、諸帳簿及び証拠書類等について照合を行い、関係職員から状況を聴取し審査した。

4. 審査の結果

審査に付された決算書、財務諸表及び附属書類は、いずれも地方公営企業法、その他の関係法令に準拠して作成されており、平成28年度における経営成績及び財政状況は適正に表示されているものと認められた。

また、諸帳簿及び証拠書類等と照合した結果、計数も正確で、いずれも符合していると認められた。

5. 審査の概要と意見

(1)南アルプス市水道事業会計

業務実績

水道事業の概要

区 分	単位	平成28年度	平成27年度	対前年差引	対前年比
年 度 末 給 水 人 口	人	71,386	71,505	△ 119	99.8
年 度 末 給 水 区 域 内 人 口	人	71,708	71,832	△ 124	99.8
普 及 率	%	99.55	99.54	0.01	—
年 度 末 給 水 戸 数	戸	27,601	27,293	308	101.1
年 間 配 水 量	m ³	10,025,210	10,108,689	△ 83,479	99.2
年 間 有 収 水 量	m ³	7,939,490	7,996,530	△ 57,040	99.3
一 日 平 均 有 収 水 量	m ³	21,752	21,848	△ 96	99.6
有 収 率	%	79.20	79.11	0.09	—
年 度 末 職 員 数	人	32	32	0	100.0
供 給 単 価	円	128.88	120.05	8.83	107.4
給 水 原 価	円	131.74	122.06	9.68	107.9
一 日 最 大 配 水 能 力 (A)	m ³ /日	47,140	36,000	11,140	130.9
一 日 最 大 配 水 量 (B)	m ³	30,624	30,617	7	100.0
一 日 平 均 配 水 量 (C)	m ³	27,466	27,619	△ 153	99.5
負 荷 率 (C/B)	%	89.69	90.21	△ 0.52	—
施 設 利 用 率 (C/A)	%	58.26	76.72	△ 18.46	—
最 大 稼 働 率 (B/A)	%	64.96	85.05	△ 20.09	—

平成28年度末の給水状況は、給水戸数27,601戸、給水人口は、71,386人で、前年度と比較すると、給水戸数は、308戸(1.1%)の増、給水人口は、119人(0.2%)の減であった。

水道利用状況は、総配水量10,025,210m³、有収水量7,939,490m³で前年度に比べ総配水量が83,479m³、0.8%の減、有収水量が57,040m³、0.7%の減となっている。

また、有収率は、79.20%で、前年度と比べて0.09ポイント増加した。

給水収益を有収水量で除した供給単価は、128円88銭で料金改定の影響により前年度に比べて8円83銭高く、給水原価は、131円74銭で前年度に比べ9円68銭高くなった。

負荷率、施設利用率は高いほど効率的であるが、平成28年度は、負荷率が0.52%減少した。

一方、最大稼働率は、数値が高いほど施設の効率性は高いといえるが、100%に近い場合には、配水能力に余裕がなく安定給水という観点からは問題となる。

本年度の最大稼働率は、64.96%であり、昨年度に比べ、20.09ポイント下降した。これは、旧白根簡易水道事業を統合したことにより、一日最大配水能力が向上したことによるものである。

収益的収支

損益計算書

(単位:円,%)

区 分	平成28年度	平成27年度	増減額	増減率
水道事業収益	1,225,919,312	1,122,183,293	103,736,019	9.2
水道事業費用	1,119,358,944	1,097,539,052	21,819,892	2.0
当年度純利益	106,560,368	24,644,241	81,916,127	332.4

平成28年度の水道事業収益は、1,225,919千円で、料金改定の影響により前年度に比べ103,736千円、9.2%増加した。

また、水道事業費用が前年度に比べ、21,820千円、2.0%増加し、純利益は前年度に比べ、332.4%の増加となった。

予算額に対する収支状況は、次のとおりである。

(収益的収入)

(単位:円,%)

科目	平成28年度			平成27年度	増減額	増減率
	予算現額	決算額	対予算現額 収入率	決算額		
水道事業収益	1,272,338,000	1,312,170,959	103.1	1,203,139,518	109,031,441	9.1
営業収益	1,145,403,000	1,186,400,630	103.6	1,105,399,694	81,000,936	7.3
営業外収益	126,935,000	125,770,329	99.1	97,500,252	28,270,077	29.0
特別利益	0	0	—	239,572	△ 239,572	—

※消費税含む

(収益的支出)

(単位:円,%)

科目	平成28年度					平成27年度	増減額	増減率
	予算現額	決算額	翌年度 繰越額	不用額	執行率	決算額		
水道事業費用	1,206,561,000	1,182,168,817	0	24,392,183	98.0	1,159,535,229	22,633,588	2.0
営業費用	1,065,945,100	1,036,545,229	0	29,399,871	97.2	1,012,148,413	24,396,816	2.4
営業外費用	138,615,900	144,648,390	0	△ 6,032,490	104.4	146,836,179	△ 2,187,789	△ 1.5
特別損失	1,000,000	975,198	0	24,802	97.5	550,637	424,561	77.1
予備費	1,000,000	0	0	1,000,000	0.0	0	0	—

※消費税含む

資本的収支

平成28年度における決算額は、資本的収入180,956千円に対し、資本的支出は、671,857千円なっている。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額490,901千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額30,148千円、過年度分損益勘定留保資金15,537千円、及び当年度分損益勘定留保資金 421,772千円、並びに減債積立金23,444千円で補てんした。

資本的収支決算の状況は、次のとおりである。

(資本的収入)

(単位:円,%)

科目	平成28年度			平成27年度		増減額	増減率
	予算現額	決算額	対予算現額収入率	決算額			
資本的収入	222,386,000	180,955,944	81.4	138,558,712	42,397,232	30.6	
企業債	104,300,000	93,000,000	89.2	49,000,000	44,000,000	89.8	
工事負担金	83,376,000	52,375,680	62.8	57,340,966	△ 4,965,286	△ 8.7	
出資金	0	0	—	0	0	—	
補助金	34,710,000	34,710,000	100.0	30,740,000	3,970,000	12.9	
固定資産売却代金	0	870,264	—	1,477,746	△ 607,482	△ 41.1	

※消費税含む

企業債は、高尾第2減圧槽建設工事等の事業に対するものであり、工事負担金は、道路改良による配水管布設替工事や公共下水道工事に伴う移設補償料である。

また、補助金は、他会計補助金として旧楡形簡易水道、旧甲西簡易水道及び旧白根間水道の企業債償還元金に対するものである。

(資本的支出)

(単位:円,%)

科目	平成28年度					平成27年度	増減額	増減率
	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率	決算額		
資本的支出	847,291,000	671,856,819	61,095,600	114,338,581	79.3	647,940,508	23,916,311	3.7
建設改良費	583,440,000	408,006,308	61,095,600	114,338,092	69.9	346,802,100	61,204,208	17.7
企業債償還元金	263,851,000	263,850,511	0	489	100.0	301,138,408	△ 37,287,897	△ 12.4

※消費税含む

建設改良工事については、水源・配水池の施設関連では、高尾第2減圧槽建設工事(1本)の他、機械及び器具等の更新に伴う取替工事等(6本)を実施した。また、管路関連では、老朽管の布設替工事(9本)、公共下水道事業(13本)及び道路改良工事(4本)に伴い、水道管布設替工事を実施した。今年度の水道管布設総延長は、新設3,433m、布設替4,726m、計8,159mとなり、解消された石綿管は2,229mで、残延長は25,177mとなった。

財務内容

財務状況は、次のとおりである。

資産合計

(単位:円,%)

科 目	平成28年度		平成27年度		増減額	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比		
固定資産	13,626,056,787	89.4	13,445,773,880	89.5	180,282,907	1.3
流動資産	1,616,708,338	10.6	1,578,689,625	10.5	38,018,713	2.4
資産合計	15,242,765,125	100.0	15,024,463,505	100.0	218,301,620	1.5

平成28年度の資産合計は、15,242,765千円で、前年度比218,302千円(1.5%)増加した。

固定資産の増加した要因は、旧白根簡易水道資産及び、高尾第2減圧槽工事等の終了によるものである。

流動資産の増の主な要因は、未収金の増加によるものである。

負債・資本

(単位:円,%)

科 目	平成28年度		平成27年度		増減額	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比		
固定負債	4,596,751,161	30.2	4,559,675,772	30.3	37,075,389	0.8
流動負債	319,011,688	2.1	350,312,037	2.3	△ 31,300,349	△ 8.9
繰延収益	2,169,204,523	14.2	2,085,016,502	13.9	84,188,021	4.0
資本金	6,113,474,796	40.1	6,093,937,336	40.6	19,537,460	0.3
剰余金	2,044,322,957	13.4	1,935,521,858	12.9	108,801,099	5.6
負債資本合計	15,242,765,125	100.0	15,024,463,505	100.0	218,301,620	1.5

各項目の増減については、以下のものが主な要因となっている。

固定負債は、建設改良等の財源となる企業債が、前年度比58,010千円(1.4%)増加している。

流動負債は、未払金が前年度比25,539千円(34.4%)減少している。

繰延収益は、長期前受金が前年度比194,757千円(6.6%)増加し、剰余金では資本剰余金が前年比2,241千円(19.7%)、利益剰余金が106,560千円(5.5%)増加している。

経営内容

収益費用の内訳は、次のとおりである。

事業収入

(単位:円,%)

区 分	平成28年度	平成27年度	増減額	増減率
営業収益	1,100,067,688	1,024,466,350	75,601,338	7.4
給水収益	1,023,269,115	960,019,633	63,249,482	6.6
加入金	50,220,000	—	50,220,000	—
受託工事収益	0	43,112,000	△ 43,112,000	—
他会計負担金	4,144,320	—	4,144,320	—
その他営業収益	22,434,253	21,334,717	1,099,536	5.2
営業外収益	125,851,624	97,495,117	28,356,507	29.1
特別利益	0	221,826	△ 221,826	—
計	1,225,919,312	1,122,183,293	103,736,019	9.2

営業収益は、前年度比で75,601千円(7.4%)増加し、営業外収益も28,357千円(29.1%)の増加となった。増加の要因は、水道料金体系の見直し(改定)による給水収益と加入金によるものである。

営業外収益の増加要因は、芦安簡易水道事業等を含んだ他会計負担金が増えたことによる。

事業費用

(単位:円,%)

区 分	平成28年度	平成27年度	増減額	増減率
営業費用	1,017,787,930	993,914,411	23,873,519	2.4
原水及び浄水費	188,126,913	177,704,413	10,422,500	5.9
配水費	74,331,629	—	74,331,629	—
配水及び給水費	—	72,646,731	△ 72,646,731	—
給水費	45,877,930	—	45,877,930	—
受託工事費	3,729,000	54,074,865	△ 50,345,865	△ 93.1
業務費	81,893,255	79,713,822	2,179,433	2.7
総係費	129,652,409	139,856,374	△ 10,203,965	△ 7.3
減価償却費	489,071,318	444,274,654	44,796,664	10.1
資産減耗費	5,105,476	25,643,552	△ 20,538,076	△ 80.1
その他営業費用	0	0	0	—
営業外費用	100,666,734	103,109,837	△ 2,443,103	△ 2.4
支払利息	92,505,920	95,729,397	△ 3,223,477	△ 3.4
雑支出	8,160,814	7,380,440	780,374	10.6
特別損失	904,280	514,804	389,476	75.7
計	1,119,358,944	1,097,539,052	21,819,892	2.0

営業費用は、前年度比23,874千円(2.4%)増額した。要因としては、中央監視システム完成による取得資産の減価償却費と原水及び浄水費の駒場浄水場夜間休日運転監視業務委託料の増加によるものである。

また、営業外費用は、前年度比2,443千円減少した。要因は、企業債未償還残高の減少に伴い、企業債の支払利息が減少したものである。

審査意見

平成28年度末の給水状況については、給水戸数27,601戸、給水人口71,386人で、前年度比では給水戸数は308戸、1.1%の増、給水人口は119人、0.2%の減となった。水道利用状況については、総配水量10,025,210^m³、有収水量7,939,490^m³で、前年度比では総配水量は83,479^m³、0.8%の減、有収水量は57,040^m³、0.7%の減となっている。また、給水に対する水道利用状況の有収率をみると、平成27年度が79.1%、平成28年度は79.2%となっており、0.1%の増となった。

今後とも漏水箇所の早期発見、早期の修繕に心がけ、効率の良い水の供給に努められたい。

経営状況は、営業収益が1,100,068千円で、前年度比では75,601千円、7.4%の増となり、このうち給水収益については、10月検針分からの料金体系の見直しにより、1,023,269千円で、前年度比では、63,249千円、6.6%の増となった。

また、営業外収益は125,852千円で、前年度比では28,357千円の増、特別利益は0円で前年度比では、222千円の減となり、総事業収入は1,225,919千円で、前年度比では、103,736千円、9.2%の増となった。

事業費は、中央監視システムの構築事業の完成に伴う取得した資産の減価償却費の増加等により、総事業費は、1,119,359千円となり、前年度比で21,820千円、2.0%の増加となった。

水道事業を取り巻く環境は、施設の老朽化に伴う更新需要が拡大する一方、給水人口は減少傾向である。その影響による水需要の縮小に伴い料金収入が減少するため、経営は厳しさを増しており、将来の財政負担に備え、安定経営を確保するために料金改定を行ったところである。

今後は、アセットマネジメントの手法を活用し、効率的かつ効果的な管理運営に努めながら、安全な水道水を安定的に市民に供給し、安心して暮らせるまちづくりに努めていただきたい。

(2)南アルプス市自動車運送事業会計

業務実績

冬季通行止め解除後の県営林道南アルプス線(夜叉神～広河原)及び県道南アルプス公園線(奈良田～広河原)の両線は、自然環境保護のため平成17年度からマイカー規制となっている。このため、市営バス利用者のほとんどが、民間の路線バスやタクシー、伊那市営バスからの乗り継ぎ客である。

平成28年度の輸送人数は、大人28,911人、小人393人の合計29,304人であり、前年度と比較すると、3,662人(11.1%)減少した。手荷物品は27,650個を輸送し、延べ運行回数は2,104回であった。

6月25日から11月4日までの133日間をバス6台により1日4往復運行し、運賃は、広河原から北沢峠間の10.2kmを片道大人550円、小人280円、手荷物代200円で営業した。

輸送実績

(単位:人、個、回、%)

区 分	平成28年度	平成27年度	前 年 度 比 較	
			増 減	増減率(%)
大 人	28,911	32,525	△ 3,614	△ 11.1
小 人	393	441	△ 48	△ 10.9
計	29,304	32,966	△ 3,662	△ 11.1
手荷物	27,650	31,376	△ 3,726	△ 11.9
運行回数	2,104	2,204	△ 100	△ 4.5

収益的収支

損益計算書

(単位:円、%)

区 分	平成28年度	平成27年度	増 減	増減率(%)
自動車運送事業収益	19,606,099	22,170,958	△ 2,564,859	△ 11.6
自動車運送事業費用	21,503,899	19,720,195	1,783,704	9.1
純 利 益	—	2,450,763	△2,450,763	—
純 損 失	1,897,800	—	1,897,800	—

決算額は、収益的収入19,606千円、収益的支出21,504千円、当年度純損失1,898千円であった。

予算に対する収支状況は、次のとおりである。

(収益的収入)

(単位:円、%)

科目	区分	平成28年度			平成27年度	増減額	増減率
		予算額	決算額	対予算現額 収入率	決算額		
自動車運送事業 収益		24,586,000	21,164,303	86.1	23,933,684	△ 2,769,381	△ 11.6
営業収益		24,462,000	21,039,050	86.0	23,801,095	△ 2,762,045	△ 11.6
営業外収益		124,000	125,253	101.0	132,589	△ 7,336	△ 5.5

※消費税含む。

(収益的支出)

(単位:円、%)

科目	区分	平成28年度					平成27年度	増減額	増減率
		予算額	決算額	翌年度 繰越額	不用額	執行率	決算額		
自動車運送事業 費用		24,551,000	23,062,103	0	1,488,897	93.9	21,482,921	1,579,182	7.4
営業費用		23,577,000	22,287,903	0	1,289,097	94.5	20,453,221	1,834,682	9.0
営業外費用		874,000	774,200	0	99,800	88.6	1,029,700	△ 255,500	△ 24.8
特別損失		0	0	0	0	0.0	0	0	0.0
予備費		100,000	0	0	100,000	0.0	0	0	0.0

※消費税含む。

資本的収支

(資本的収入)

(単位:円、%)

科目	区分	平成28年度			平成27年度	増減額	増減率
		予算額	決算額	対予算現額 収入率	決算額		
資本的収入		0	0	0	0	0	0.0

(資本的支出)

(単位:円、%)

科目	区分	平成28年度					平成27年度	増減額	増減率
		予算額	決算額	翌年度 繰越額	不用額	執行率	決算額		
資本的支出		0	0	0	0	0.0	0	0	0.0

財務内容

財務状況は次のとおりである。

資産合計

(単位:円、%)

科目	平成28年度		平成27年度		比較増減	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比		
固定資産	4,134,284	8.3	4,513,304	8.7	△ 379,020	△ 8.4
流動資産	45,551,241	91.7	47,317,460	91.3	△ 1,766,219	△ 3.7
資産合計	49,685,525	100	51,830,764	100	△ 2,145,239	△ 4.1

負債・資本

(単位:円、%)

科目	平成28年度		平成27年度		比較増減	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比		
固定負債	2,907,723	5.8	2,450,723	4.7	457,000	18.7
流動負債	920,704	1.9	1,610,204	3.1	△ 689,500	△ 42.8
繰延収益	10,364	0.0	25,303	0.0	△ 14,939	△ 59.0
資本金	16,827,068	33.9	16,827,068	32.5	0	0.0
剰余金	29,019,666	58.4	30,917,466	59.7	△ 1,897,800	△ 6.1
負債資本合計	49,685,525	100	51,830,764	100	△ 2,145,239	△ 4.1

経営内容

収益的収支勘定で前年度と比較すると、営業収益(運送収益)で、2,557千円(11.6%)の減少となった。

8月下旬から9月にかけて、秋雨前線や台風接近により天候不順が続き、利用者が大幅に減少した。

収益費用の内訳は、次のとおりである。

事業収入

(単位:円、%)

区 分	平成28年度	平成27年度	増減額	増減率	
営業収益	19,480,672	22,038,127	△ 2,557,455	△ 11.6	
内 訳	運送収益	19,480,672	22,038,127	△ 2,557,455	△ 11.6
	その他の営業収益	0	0	0	0.0
営業外収益	125,427	132,831	△ 7,404	△ 5.6	
内 訳	受取利息	1,314	8,650	△ 7,336	△ 84.8
	補助金	109,000	109,000	0	0.0
	長期前受戻入	14,939	14,939	0	0.0
	雑収益	174	242	△ 68	△ 28.1
計	19,606,099	22,170,958	△ 2,564,859	△ 11.6	

事業費用

(単位:円、%)

区 分	平成28年度	平成27年度	増減額	増減率	
営業費用	21,503,875	19,720,011	1,783,864	9.1	
内 訳	運転費	16,958,679	16,475,477	483,202	2.9
	車両修繕費	1,793,246	1,225,821	567,425	46.3
	その他修繕費	84,400	32,000	52,400	163.8
	減価償却費	379,020	403,077	△ 24,057	△ 6.0
	保険料	601,255	629,095	△ 27,840	△ 4.4
	運輸管理費	309,885	295,265	14,620	5.0
	一般管理費	1,377,390	659,276	718,114	108.9
	資産減耗費	0	0	0	0.0
営業外費用	24	184	△ 160	△ 87.0	
雑支出	24	184	△ 160	△ 87.0	
特別損失	0	0	0	0.0	
その他特別損失	0	0	0	0.0	
計	21,503,899	19,720,195	1,783,704	9.1	

審査意見

平成28年度は、8月下旬から9月にかけて、秋雨前線や台風接近の影響により天候不順が続き利用者は3万人を割った。

利用者が多い夏休み期間には、早朝便を運行し、最終便の時間を遅らせるなどして利用者のニーズに応えている。

今後も南アルプスを訪れる多くの方に、バスを気持ちよく利用していただき南アルプスの魅力とともに、登山を楽しんでいただけるよう、公共交通機関として努力されたい。

また、大切な自然環境を保ちながら、ユネスコエコパークの理念のもと健全経営を堅持されたい。しかしながら、事業従事者の高齢化、バスの老朽化などの課題も多く、今後、料金改定や事業委託も視野に入れた検討も考慮されたい。